

S H I M I N P H O T O

市民フォト

KAGOSHIMA

鹿児島



NO.100

平成17年4月1日発行

屋外のオブジェ

Outdoor Objet



【喜入 輝く未来へ】

～喜入新港～

CONTENTS

【特集】Fotoが綴る25年 3

クローズアップ

深見聰さん

学校探訪

郡山中学校

カメラトピックス

ハロー鹿児島

キム・ウッド(ラフさん)

私の好きな場所

松澤隆司さん

ふるさと再発見～史跡編～

若き薩摩の群像

あなたのフォトサロン

城西写友会

よかタイム

森田多美盛さん

街角ウォッチング

牟礼岡周辺

わが家の味じまん

吉村さんファミリー

館のたからもの

鹿児島アリーナ

わが町上空 支所編

喜入支所周辺

30

29

28

27

26

24

22

20

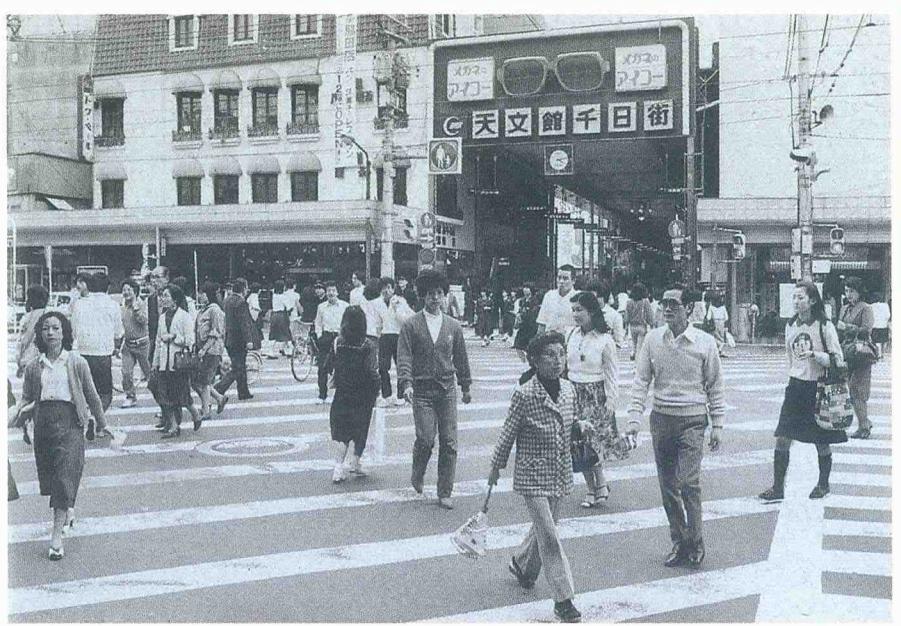
18

16

14

12

★表紙写真説明
ポカポカ陽気と満開の桜、子どもたち
もつれしそうです。
(仙巖園)



昭和56年

変わっていくもの、変わらないもの…。



平成17年

特集

フォトが綴る つづ 25年

創刊100号記念

「市民フォト鹿児島」が、街の姿、市民の表情を綴って25年。
四半世紀前と今を比較しながら、街を歩いてみました。



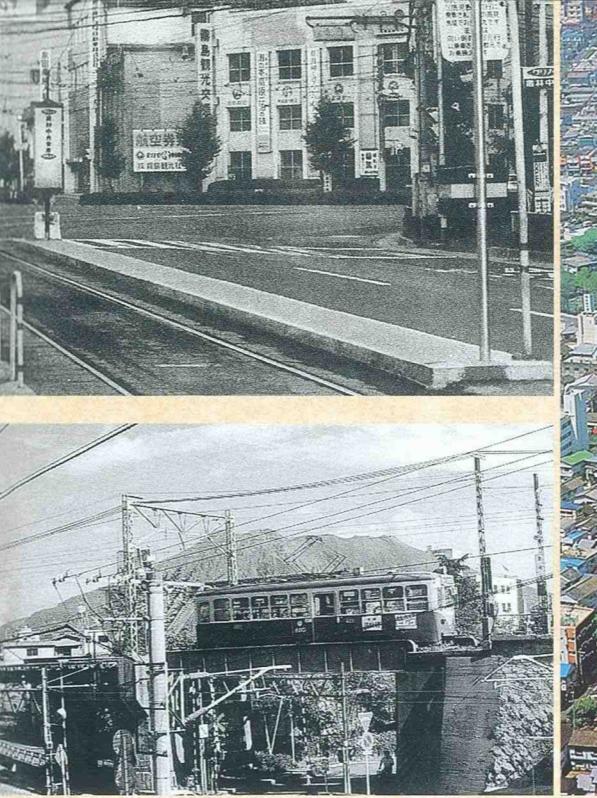
長田神社界隈を散歩する椋鳩十さん(昭和55年)



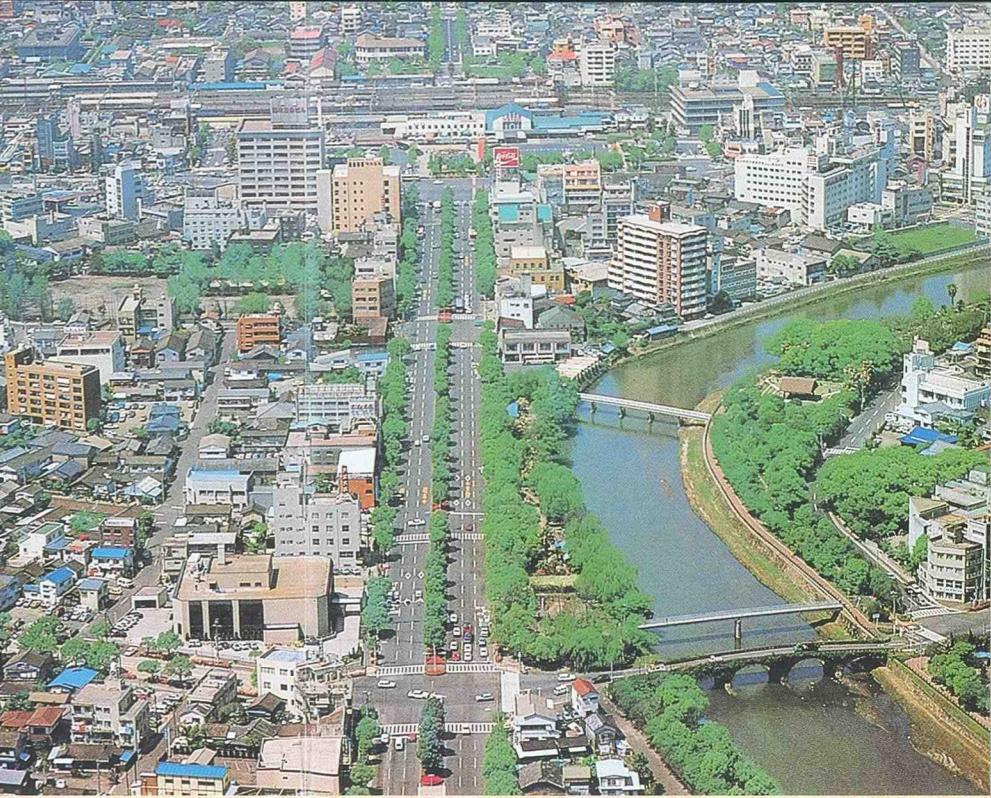
加治屋町(昭和56年)



(昭和55年)



市電上町線(昭和60年)



ナボリ通り(昭和57年)

街の姿

市民フォト鹿児島は、その時代を飾った話題や人を掲載してきました。

25年という歳月は、街の姿を変えていきました。古いものに替わり、新しいものが造られています。

これからも、さらに姿を変えていきます。しかし、街には当時の面影を残している所も多くあります。

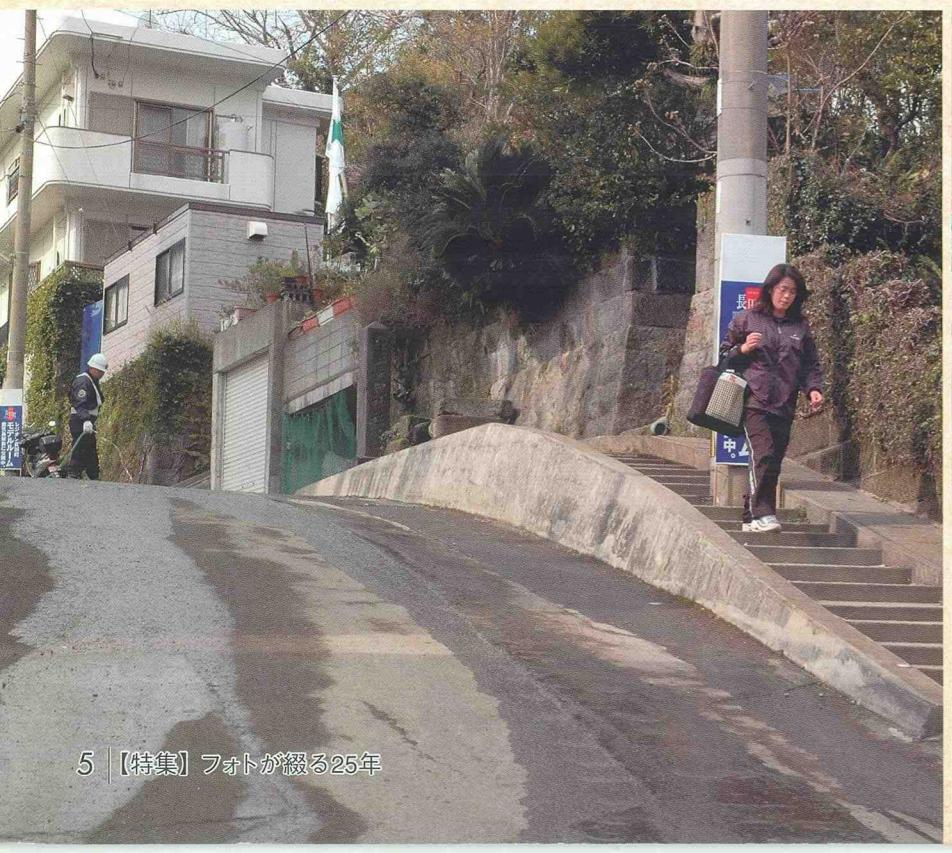
「わたしの散歩道」

創刊号に掲載されていた「わたしの散歩道」のコーナーで最初に登場していただいたのが、今年生誕100年になる児童文学作家の故・椋鳩十さん(昭和62年他界)。掲載当時、散歩道として長田神社界隈を挙げられていました。

「細い道でしよう、車が来ない。昔の武家屋敷の石垣の跡が、ちよこちよこと残つてね。

この辺りは街と違つて、たいていが顔見知りの人たちだからね。会えば、やあくとあいさつをしながら――。なんとなくまだ、人間があるとう感じだね」。(抜粋)

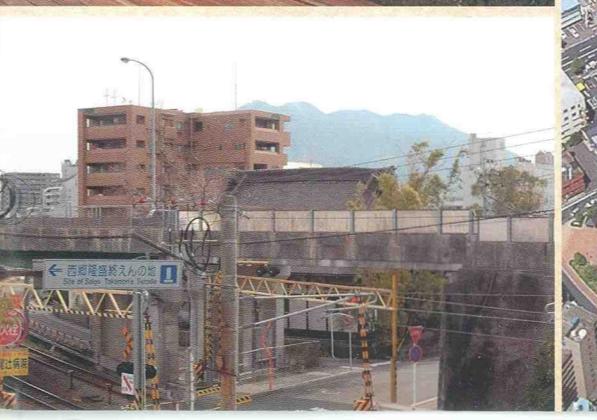
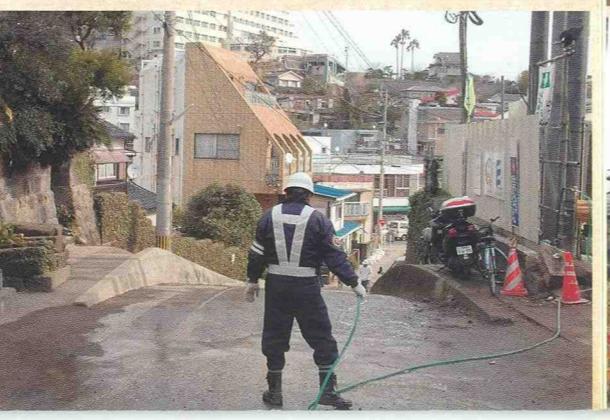
今でも当時の雰囲気は残っていますが、道は広がり、住宅が建て替わり、時の流れを感じられます。



5 | 【特集】フォトが綴る25年



【特集】フォトが綴る25年 | 4

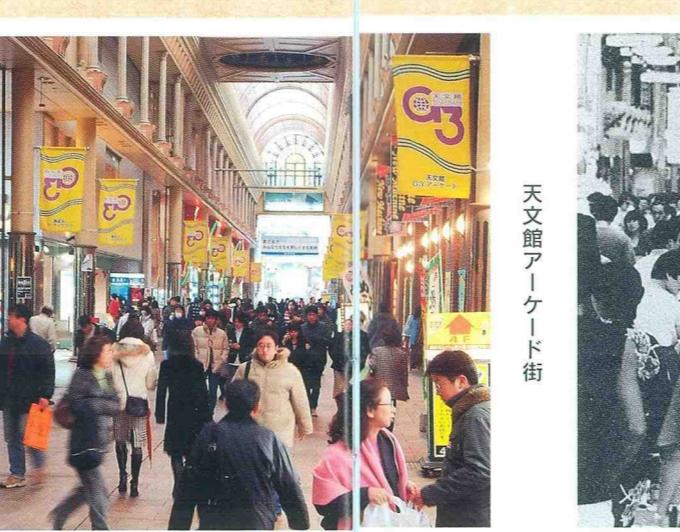


市民の表情

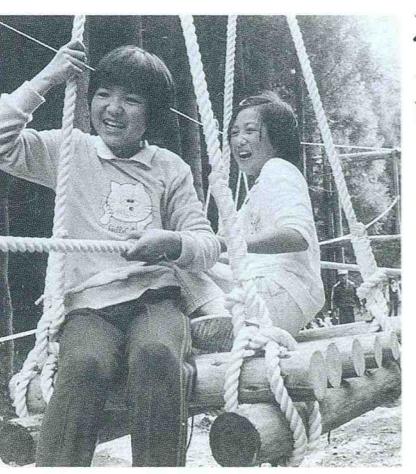
人々の真剣な表情、語らいとふれあいの笑顔、道行く人たちの表情があります。時代は変わつても、まちの主役は市民であることに変わりありません。



今も昔も
変わらない

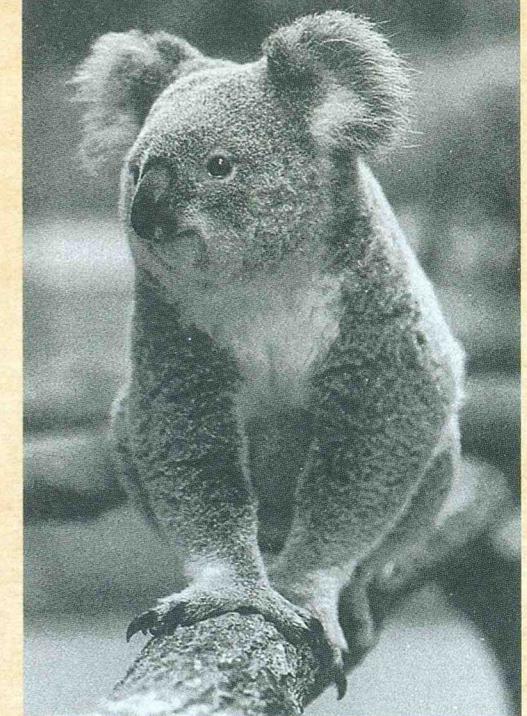


生き生き元気な
市民の表情は



コアラがやつてきた

コアラのかわいらしさは
変わらない



ネムネム

はやと



動物公園のコアラ。

昭和59年10月に初めて来たのははやととネムネムのオス2頭でした。翌年5月には、サクラ、ユカリ、ミニ、スクスクのメス4頭も仲間入り。その後平川動物公園で生まれたコアラは20年間で51頭。日本一の大家族になりました。

今も昔もコアラのかわいらしさは変わりません。

現在、16頭を数える平川

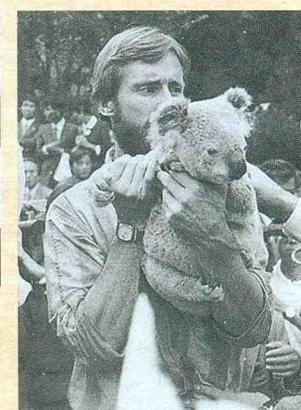
動物公園のコアラ。



コアラ舎



(昭和59年)



大家族になつたよ

平川動物公園 コアラの歴史

- 昭和59年10月 はやと♂ ネムネム♂ 来園
- 昭和60年5月 サクラ♀ ミナミ♀ スクスク♀ ユカリ♀ 来園
- 昭和61年5月 ミナミが出産、初の2世コアラ(アスカ♀)誕生
- 7月 スクスクが出産(サツマ♂)誕生
- 昭和63年7月 日本初の3世コアラ(ラッキー♂)誕生
- 平成5年5月 日本初の4世コアラ(サツキ♀)誕生
- 平成7年7月 日本初の5世コアラ(コウ♂)誕生
- 平成9年5月 日本初の6世コアラ(シン♂)誕生
- 平成14年10月 ピア♀12歳2ヶ月で8頭目出産(国内最多)



コアラ舎



【特集】フォトが綴る25年

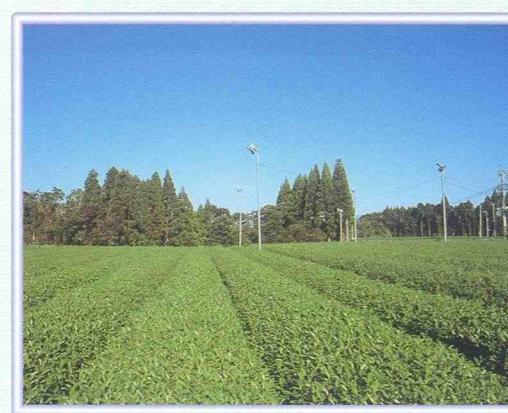
最新のまちの姿

昨年11月に1市5町が合併して誕生した新・鹿児島市。人口や面積だけでなく、新しい魅力も増えました。

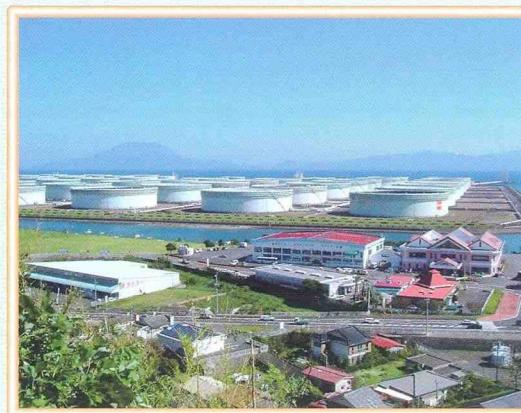
○数字で見る25年○	
人口 総数	昭和55年 496,879人 平成17年 605,253人
世帯 数	男女 235,963人 260,916人 162,739世帯 (3月1日現在 推計人口) 282,423人 322,830人 258,035世帯 (3月1日現在 推計人口)
面 積 最 北	288.29km ² 北緯31度41分 東経130度31分 皆与志町三重岳
最 南	北緯31度24分 東経130度29分 平川町木床峠
最 東	北緯31度33分 東経130度43分 黒神町瀬戸崎海岸
最 西	北緯31度29分 東経130度26分 下福元町錫山
支 所	3支所 谷山・伊敷・東桜島 9支所 谷山・伊敷・東桜島・吉野・吉田・桜島・喜入・松元・郡山 323町 谷山・伊敷・東桜島・吉野・吉田・桜島・喜入・松元・郡山 181町 市 の 予 算 市立の小・中学校 710億円(一般会計) 小学校 51 中学校 29 2,010億円(一般会計) 小学校 83 中学校 44



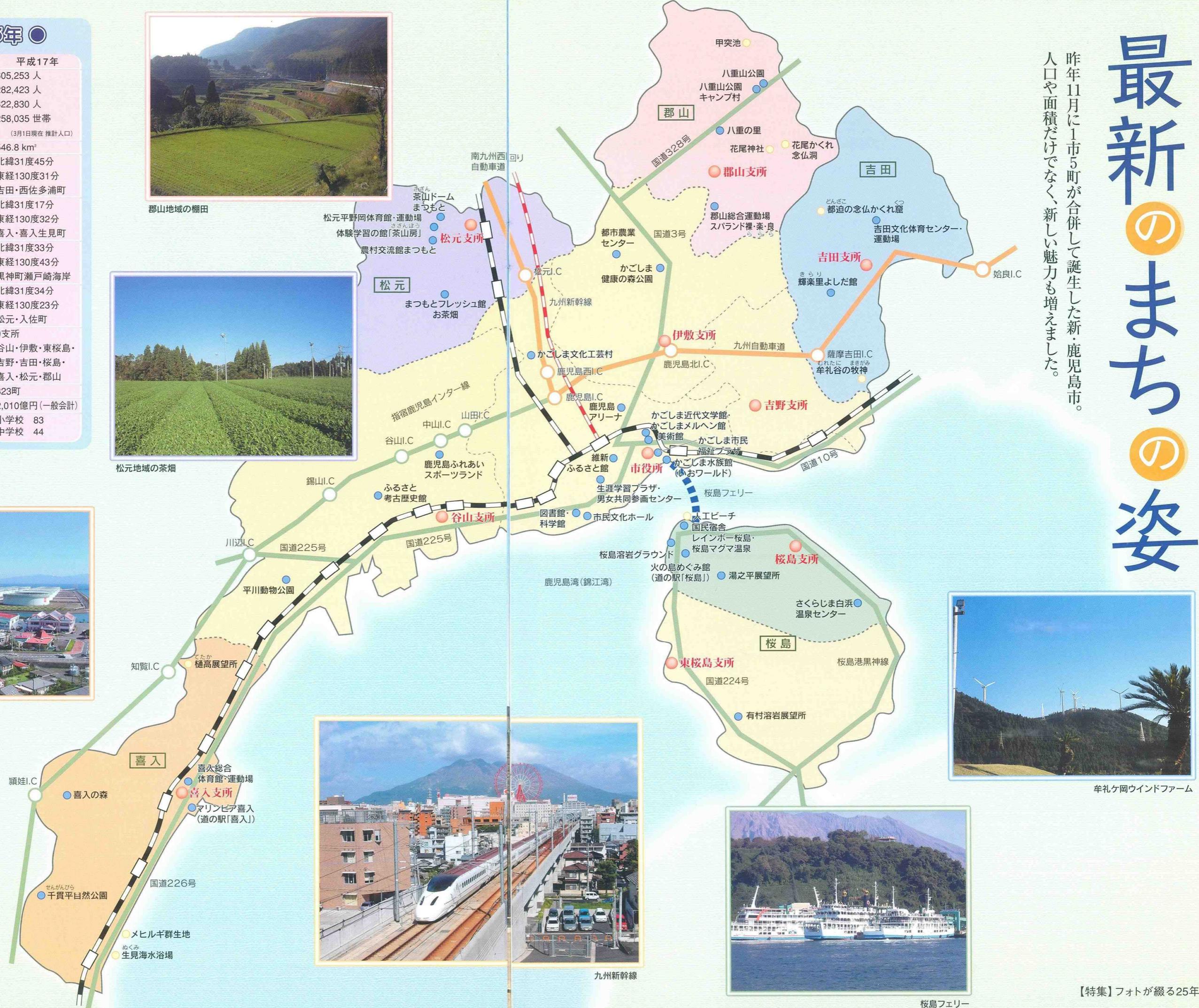
郡山地域の棚田



松元地域の茶畑

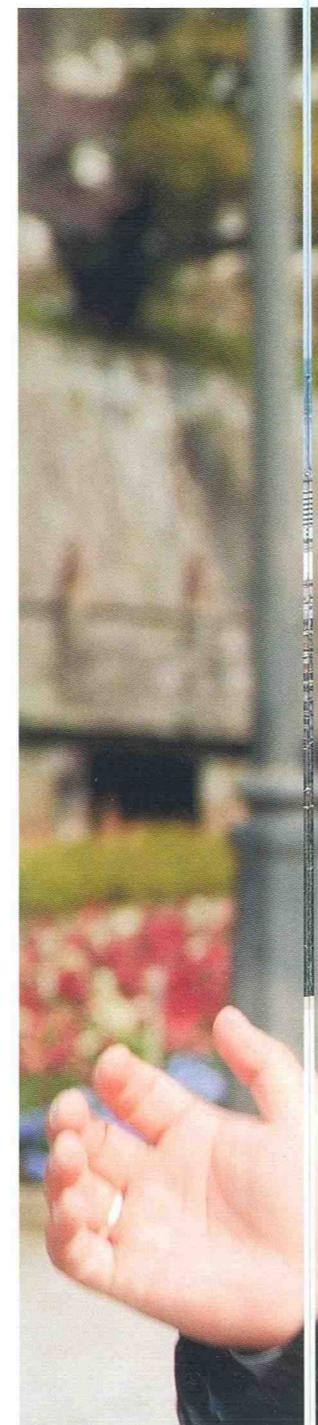


石油備蓄基地とマリンピア喜入





地域再発見のまち歩きで 鹿児島の未来図を描きたい



「ライフワークはフィールドワーク（野外活動）」と語る深見さん。地理・歴史を学び、まちづくりを考える「かごしま探検の会」設立から丸3年。

会の水先案内人は、はつらつとした足どりで、今日もまち歩きを楽しむ。

**自由研究は「史跡めぐり」
そして「山学校」へ**

「まち歩きの原点は、小学校の自由研究で選んだ史跡めぐりでした」。

身近な場所に先人の足跡が残っていることに驚きを感じ、興味を持つた。

「高校の夏休みの補習時に、数人でこそり教室を抜け出して、城山遊歩道を散策していました。私たちはこれを山学校と呼んでいましたね」。

高校3年のとき、大学で歴史を学ぼうと考えていた矢先に起きたのが8・6水害。各所で水があふれ、自身も腰まで濁流に漬かりながら帰宅した。

「まちを知るために歴史だけではなく、地形・地質を学ぶことも大事」と痛感した出来事だった。

これが契機となり、大学では地学

質を学び、防災とまちづくりを研究した。「とにかく現場に足を運べ。明らかでないものが見えてくる」が教官の口ぐせ。「山学校以来、そんな活動が自分の性に合っていたんでしょうね」と語るように、自然と学究の世界にひかれていった。

**探検というより冒険だった
会の誕生**

各地の役場でパンフレットをもら

い名所旧跡をめぐる学生同士の勉強会が探検の会の前身だった。大学院に進み、聞いた言葉がNPO法人（特定非営利活動法人）。「学問の成果を地域社会に還元するNPO活動をやつてみないか」という教授の誘いに応じ、勉強会を地域づくりに役立てようとした。

書類作りや役所とのやり取り、役員や会員の人集めなど未知の経験ばかり。作業は試行錯誤の連続だった。

「当たって砕けるの気持ちでしたね」。

**地域を丸ごと博物館に
エコミュージアムづくりが夢**

小学生から大正生まれまで幅広い会員層。年長者が、昔のまちの様子を語り、若者が熱心にメモを取る光景も見られるようになつた。現在会員数は170人。鹿児島大好きの輪高まりを肌で感じるようになつてしまつたばかりである。



事がエコミュージアム構想。地域を丸ごと博物館としてとらえ、景観や文化を現地で保存・展示し、観光や生涯学習に役立てる新しい考え方だ。

「公共施設と地域の景観・文化を組み合わせた住民参加の生きた博物館づくり。そんなまちづくりの実現に向け、住民と行政の橋渡し役になりたい」。

探検の会設立から駆け足で過ごしてきた。持ち前の気力・体力・好奇心で次に挑戦するのは、大学院での博士号取得という難題だ。

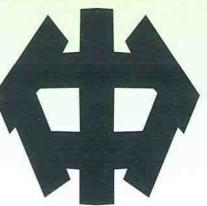
探検の会のさらなる広がりと、自らの夢の実現に向け、東奔西走する毎日。鹿児島を科学する知的探検の旅は始まつたばかりである。

深見 聰さん

略歴

昭和50年生まれ。県立鶴丸高校、鹿児島大学理学部地学科卒業。同大学大学院博士後期課程人文社会科学研究科在籍中。NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会理事長。

Close Up
クローズアップ



郡山中学校



卒業生作の彫刻。思春期の思いを込めて思索にふける人を表す。

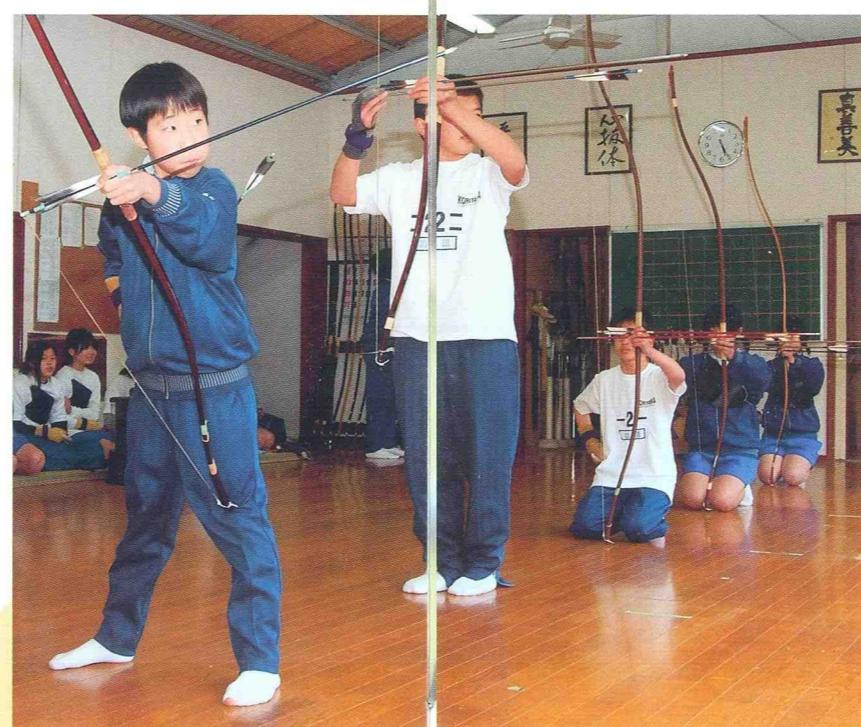


創立 昭和22年5月2日 生徒数 289人 (平成17年3月1日現在)

知



新聞を教材にして学習するNIE (Newspaper in Education) の実践校。一人ひとり注目する記事はさまざまだ。



弓道部は県弓道連盟の推薦で夏の全国大会出場が決まっている。

体



徳



学校周辺のボランティア清掃を全校生徒で行った。



春を探して絵を描く授業。春はすぐ見つかった。

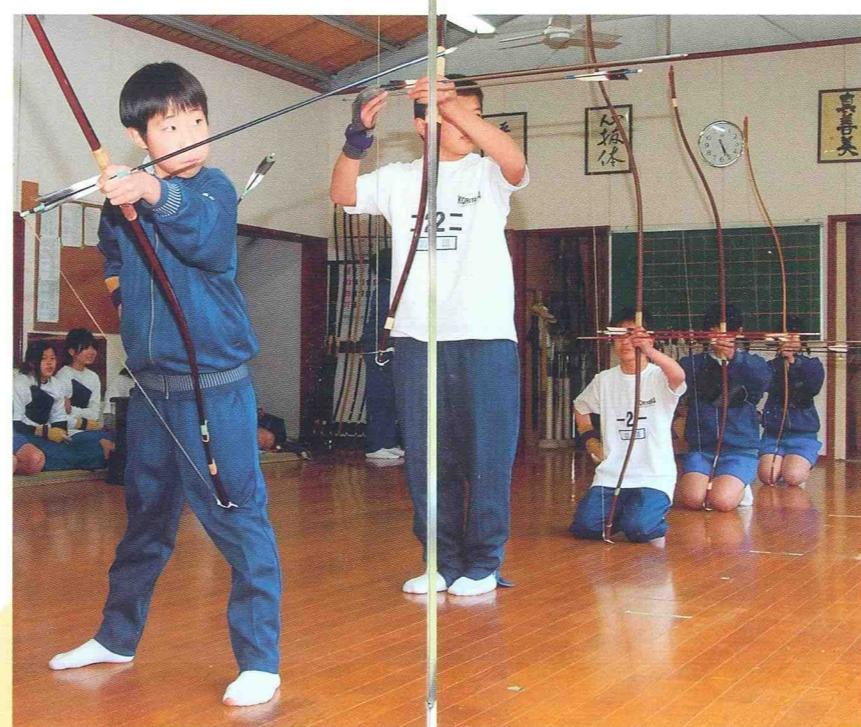


知

新聞を教材にして学習するNIE (Newspaper in Education) の実践校。一人ひとり注目する記事はさまざまだ。



春を探して絵を描く授業。春はすぐ見つかった。



弓道部は県弓道連盟の推薦で夏の全国大会出場が決まっている。

体



徳



学校周辺のボランティア清掃を全校生徒で行った。





2月6日
世界一桜島大根
コンテスト

旧桜島町が開催していたコンテストを市が引き継ぎ、桜島溶岩なぎさ公園で開催。総合部門で優勝した桜島大根は重さ24.8kg、胴回りが118.5cmありました。



2月19日
市長とふれあいトーク

森市長が就任してから初めて、吉田地域で開催されました。市民およそ100人が参加し、意見や要望が出されました。



3月6日
新生鹿児島市誕生記念
ランニング桜島第25回大会

桜島溶岩ランニングコースで行われ、県内外から約3,000人が参加。溶岩原でさわやかな汗を流しました。



1月22日
鹿児島実業高校サッカー部
優勝パレード

全国高校サッカー選手権で優勝した鹿児島実業高校のサッカー部が鹿児島中央駅から中央公園までの約2.5kmをオープンカーでパレードしました。



1月22日・23日
地域まちづくり会議

合併した旧5町の地域活性化策を話し合うため旧5町ごとに発足。各支所などで初会合が開かれました。



1月31日～
プロスポーツチーム鹿児島キャンプ

Jリーグの柏レイソルやジュビロ磐田、プロ野球千葉ロッテマリーンズのプロスポーツチームがキャンプインしました。



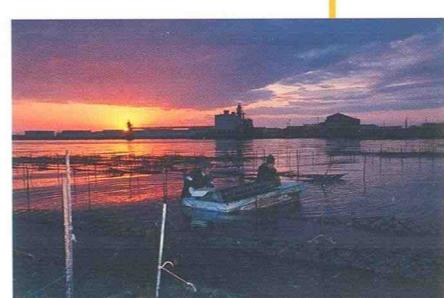
1月10日 新成人のつどい

市では約8,000人が対象。会場の市民文化ホールは、スーツや晴れ着に身を包んだ新成人で華やいでいました。



1月12日
桜島火山爆発総合防災訓練

桜島や南ふ頭などを会場に、関係機関、県警、消防など118機関と市民など約4,300人が参加しました。



1月中旬
アオノリの収穫(喜入中名町)

寒さが厳しくなるころが収穫の最盛期。寒風の中、早朝から収穫が行われました。



12月24日 森市長初登庁

市長選で初当選した森新市長が、多くの職員が出迎える中初登庁しました。



1月9日 消防出初式

新栄町の市消防総合訓練研修センターで開催。今年から旧5町の消防団員を含め、消防職員、消防団員約1,500人が参加し、多くの市民が見学する中で行われました。



イギリス、中国、パキスタン、アメリカ、日本の親子15組が
それぞれの国の子どもの遊びを楽しんだ。

国籍を感じない交流を

2月末、市教育総合センター。

ゲームが始まる。大人も子どもも真剣な表情。合図ですばやく動き出し、勝負がつくと歓声が響く。

子どもの遊びを通して異文化理解を深めるための「国際交流親子のつどい」。いつしか友だちになり、話し込む子どもたちを見ながら、キム・ウッドラフさんは言う。

「子どもたちは国籍なんて気に

ません。そういう交流が理想ですね」。

活火山の麓の住人になる

一昨年から旧桜島町に勤務。合併に伴い、昨年8月からは市国際交流アドバイザーとして文書の翻訳、イベントでの通訳、英字広報紙の発行などをしているキムさん。故郷はイングランドの中部のレスターという人口約29万人の街。

「インド系の住民が多く、インドのお祭りも盛んに行われています」。

大学では日本語を専攻し、東京に1年間留学。初めて鹿児島を訪れたのもそのころ。

「活火山の麓に人が住んでいることにびっくり。その後、まさか自分が住むことになるなんて」。

交流には積極性と 思いやりが必要

市内の小・中学校を訪問すること

に1年間留学。初めて鹿児島を訪れたのもそのころ。

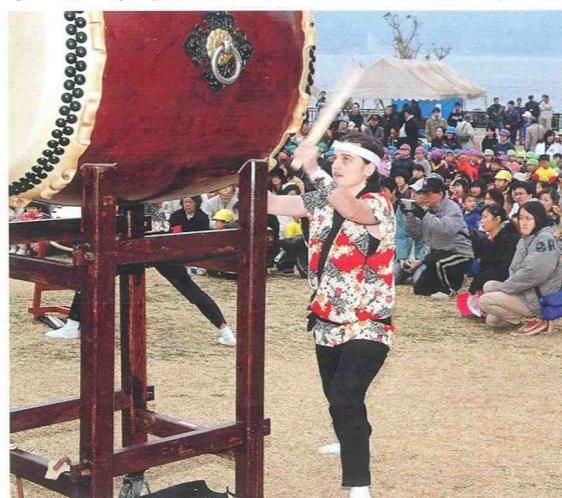
「小学4年生までは元気よく話しかけてきます。5年生くらいになると周りの人々がどう考えているのか気にし始めるようです」。

「周りの人のことを気にすることはないやりを持つことにつながる。それも悪いことではないと言えます」。

「留学生中に始めた趣味の太鼓を自ら体で私たちに教えてくれる。心のやりとり—彼女はそれを自然体で私たちに教えてくれる。



「リズムに集中するのは緊張しますが、メンバーと一緒にとして参加できるのが何よりもうれしい」
『桜島カンバチ＆ブリ大根まつり』にて



【イギリス出身】
キム・ウッドラフさん

**Hello
KAGOSHIMA**



城山に来ると 生きている感じがする

自転車で城山に来ては、かずらをロープ代わりに道なき道を登つたり、藩政時代の水道遺跡に入り込んで探検したり。あのころは所々にやぶに閉まれた広場があつてそこで野球をし、展望台の近くにあつた火の見やぐらに上つて歌を歌いました。

近所の友達と連れ立つていかなくても、遊びに来たらだれかがいるものでしたね。しおりに来ていたわけではないのに、なぜか思い出に残っています。気付いたら知らない人と仲良くなっていたのが楽しかったのかもしません。

ここはわたしの小・中学生のころの遊び場でね。当時は今ほど遊ぶところがなく、自然の中で遊んだものです。鴨池や磯で泳ぎ、甲突川ではいかだ遊びや釣り箱を沈めてうなぎ捕り。山の遊びは、この城山でした。

城山展望台

今年1月の全国高校サッカー選手権大

会では念願の単独日本一にたどり着きました。決勝戦はPK戦になりましたが、選手たちは最後まで明るさが消えませんでした。厳しいトレーニングを乗り越えてきたという自信から余裕が出てきました。苦しい状況の中でも明るさを保つのは難しいですが、難しいことをしなければ優勝はできません。

サッカーを始めたのはサッカーを「蹴球」と呼んでいた、中学生のときです。

近所のお兄さんに誘われて、以来、約50年サッカーに携わっています。

全国優勝して、いろんな方から「久しぶりにさわやかさを味わった」と言われました。子ども達が粘り強い、迫力がある、若者らしい、素直。これは九州一般にも言えることですが、県外に行くとよく言われます。指導するとき大事にしていることですからうれしく思います。

県外からお客様が来ると、夜景を見せに城山に連れて来ます。みなさんびっくりされます。すばらしいって。

展望台は、桜島を眺める最高の場所であります。わたしは、少し霞んで見える桜島が好きなんですよ。霧雨気があり、静かに長く眺められるでしょう。ここからの桜島と錦江湾は昔も今も変わらない景色を見ると小さいころの原点に返ることができます。城山は鹿児島人が落ち着く場所だと思いますね。



優勝の喜びがあふれる（南日本新聞社提供）

【取材メモ】

総監督の願いは、「いつまでも子ども達と青春を詠歌すること」。健康を保ちながら、生徒の指導に情熱を傾ける。指導には生徒にどれだけ喜びを与えるかという楽しみがあるそうだ。生徒達に尊敬され慕われるのが分かるよな気がした。



和の好きな場所

My favorite Place

鹿児島実業高等学校サッカー部総監督

松澤 隆司さん

昭和15年、鹿児島市生まれ。昭和39年鹿児島実業高校サッカー部コーチ就任、41年から監督、平成15年より総監督となる。今年1月の全国高校サッカー選手権大会で初の単独優勝に導く。鹿児島県サッカー協会副理事長。九州サッカー協会常任理事。

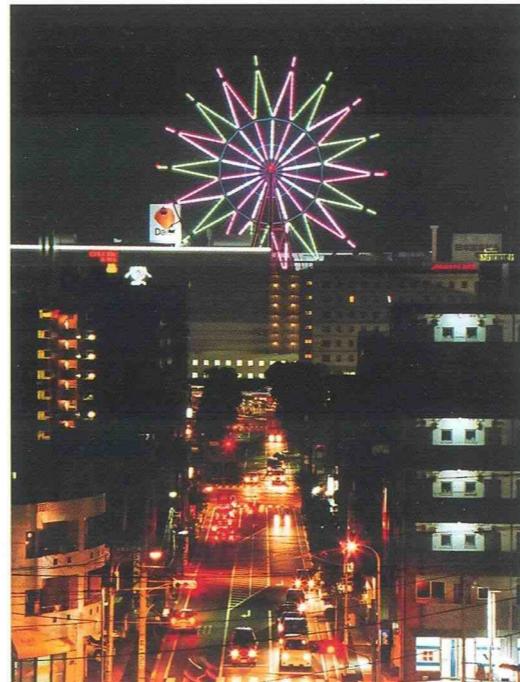




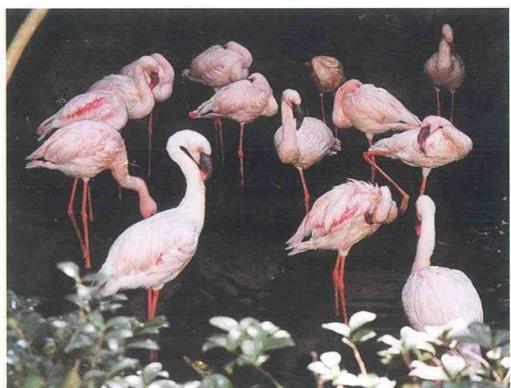
「棚田の春」 米田 尚史



「春光」 永田 淳二



「シンボル」 西郷 茂



「ひとやすみ」 町田 周子



「ひだまり」 石堂 道一



「桜島冠雪」 下堂菌 純治

イカ餌木

え
ぎ

森田 多美盛 さん



明治中ごろ、町のだんな衆がコレクションを競い合った餌木。アオリイカなど大きなイカを釣るのに使います。海に入るのはもつたないような美しさです。

イカ TIME

YOKAタイム

お手製の餌木でイカ釣りされるそうですね

ほぼ毎日イカ釣りに行きます。始めたころは買っていた餌木も、10年程前から自分で作るようになりました。

木を削って形にし、防水のため赤ペンキを塗り、布を張ります。布はきらきら光る中布を張り、その上にもう一枚、上布を重ねます。

布を重ねるんですか？

二枚重ねると上布から透ける中布の色の光具合が、見る角度によって変わります。

海の中でイカが餌木に近づくにつれ、餌木の色が変わっているように見え、だまされる

ようです。

餌木の選びかたは

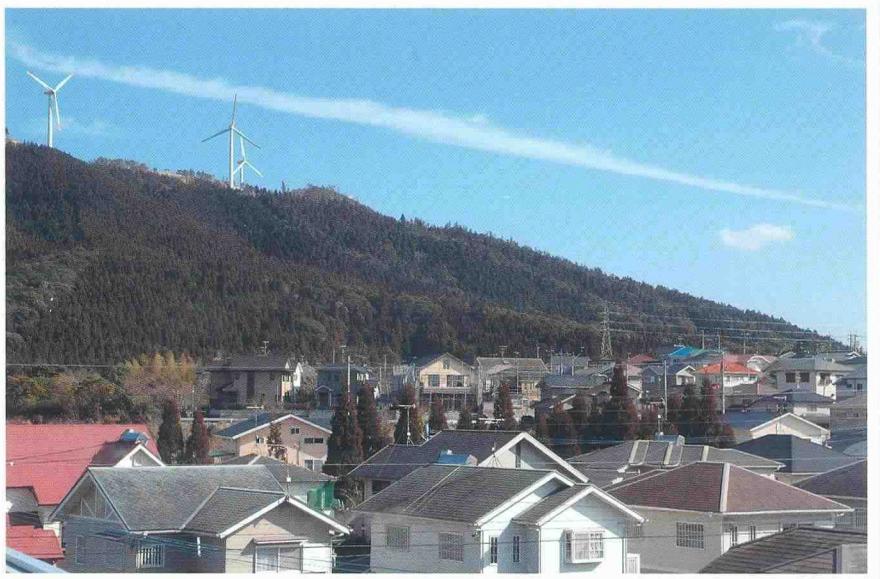
海が澄んでいるときは青・黒系統、薄濁りのときは青系統、濁っているときは赤系統を使うといいといわれています。

イカ釣り仲間でどんな餌木がよかつたか情報交換します。

でも、前日にたくさん釣れたからといって、次の日にその餌木が合うとは限らないんです。

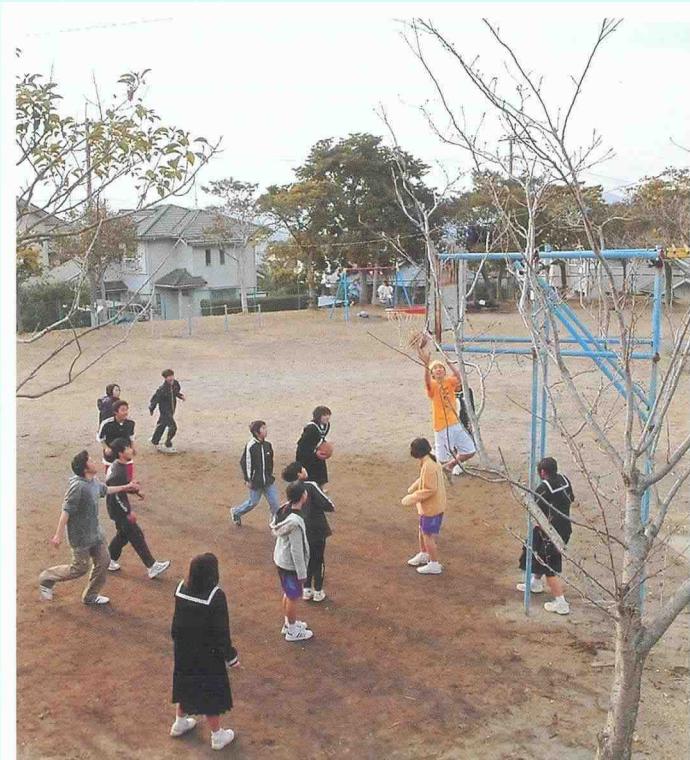
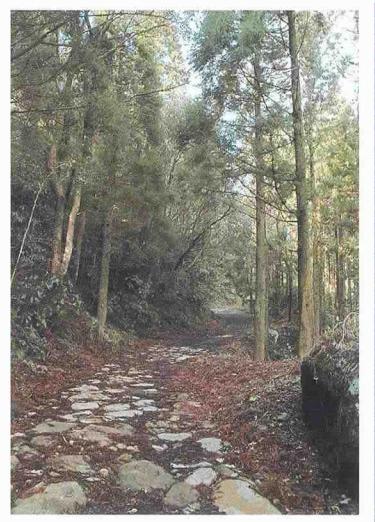
いい餌木はイカが教えてくれます。釣れるイカがだんだん大きくなつてくるんです。収穫があれば病みつきになりますよ。





街角ウォッチング

～牟礼岡周辺～



味がじまん家

「地鶏のかま飯」

「ふくれ菓子」

吉村さんファミリー

[四元町]



家庭の数だけ食卓があり、家庭の数だけ語らいがある。テーブルに広げられた自慢の料理は、家族の笑顔を演出する。

鹿児島市内におよそ25万8千世帯。一人から大家族まで食卓の風景はさまざま。わが家の味は家庭をどのように彩っているのだろうか。

夜7時、吉村忍さん、美代子さん夫妻の家は、楽しい笑い声でにぎやかだ。それもそのはず、今日は、隣に住む息子の政明さん一家と一緒に夕ごはんを食べる。

メニューは松元地域に昔から伝わるおもてなし料理、地鶏のかま飯。裏の小屋にいる地鶏をさばき、今も、盆や正月に出す。栗のように見えるのは、まだ鶏のおなかの中についた卵。このゆで卵の黄味はパサパサ感がなく、歯ごたえがあった。ごはんは米、野菜、地鶏の甘みがじみ出でてい砂糖が入っているのかなと思うほど甘い。かまどで作ったかま飯のもう一つの楽しみはおこげ。あまりの香ばしさにまた夢中で探してしまう。

地鶏の刺身を手づくりのしようにで食べる。色は淡口しようゆより薄く、麹の香りが強い。なめてみると甘さがない。この塩辛さと地鶏のうまみとのバランスが絶妙である。

今回のレシピ



「地鶏のかま飯」

1. 材料(4人分)

米400g、水450cc、しょうゆ(淡口)大さじ3、みりん小さじ1、地鶏の皮100g、にんじん30g、ごぼう20g、しいたけ4枚、卵4個

2. 調理手順

- ①地鶏の皮は2cmくらいのそぎ切りにする。
- ②にんじん、しいたけは細かく切り、ごぼうは細かいさがきにする。
- ③水が沸騰したら、洗ってざるにあげておいた米、①、②、割った卵を入れ、強火で20分くらい炊く。

「ふくれ菓子」

1. 材料(4人分)

小麦粉200g、重曹6g、黒砂糖200g、水40cc

2. 調理手順

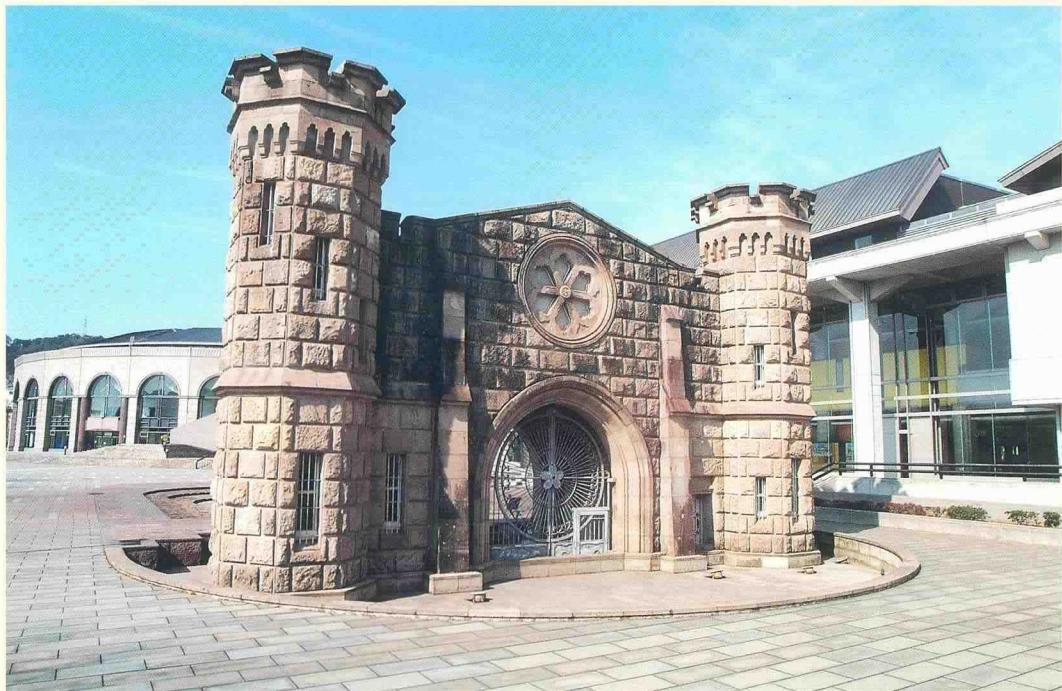
- ①小麦粉、重曹、黒砂糖を混ぜる。
- ②水を入れてざっくり混ぜる。
- ③1時間くらい蒸す。



「嫁いではじめて地鶏を見たとき、鶏肉の色の違いにびっくりしました。白いと思っていた身が赤いから」と政明さんの妻の久代さん。「おじいちゃんの地鶏が大好き」と言う太介君の横でお兄ちゃんの哲朗君が地鶏の刺身を食べるのに奮闘していた。

「孫が来ると食事がにぎやかで楽しいです」ね」と忍さん。政明さんと一緒に、楽しい会話とおいしい料理をつまみに焼酎が進む。その傍らで美代子さんと久代さんは、自家製の小麦粉で作った香ばしい味のふくれ菓子をお茶うけに、これもまた自家製のお茶を飲んでいた。

鹿児島アリーナ 「旧鹿児島刑務所正門」



(国登録有形文化財)

この石門は、旧鹿児島刑務所の正門として明治41年(1908年)に建てられました。設計者は、当時司法省營繕課長だった山下啓次郎(西田町出身)といわれています。

重要文化財の尚古集成館と同様に、鹿児島の石造文化の伝統が脈々と息づいている貴重な建築物です。

その堂々とした風ぼうは、中世ヨーロッパの城門を思わせ、中央上部のローズ・ウンドー(バラ窓)や、鉄製門扉の優美で華麗な文様は、極めて纖細なデザインです。

市では、昭和61年(1986年)に刑務所が移転したとき、市民の要望もあり、この石門を保存することになりました。

保存に当たり、アリーナの前庭噴水池の中に、城塞のような塔を持つ双塔形式の石門と近代建築が融合する形で、アリーナの修景として取り入れました。

この記念門の前に立つと、時代の移り変わりを感じることができます。

(市民スポーツ課長 千葉隆祥)



刑務所時代の正門(鹿児島刑務所提供)



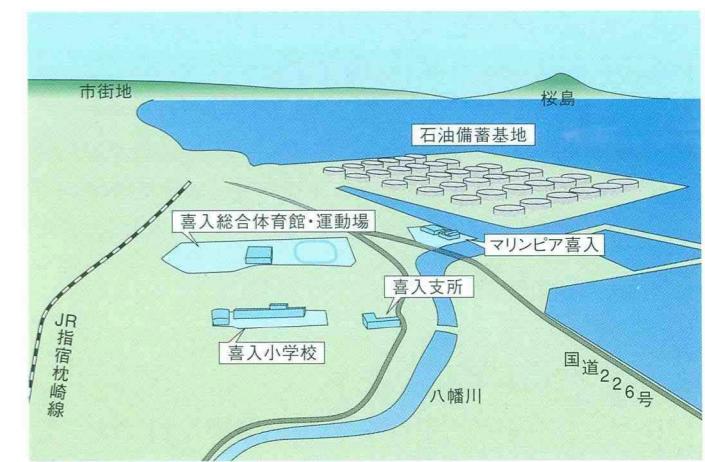
「喜入支所周辺」

人口約1万2500人の喜入地域。その中心部に旧町役場だった喜入支所があります。

まちのシンボル、石油備蓄基地は1969(昭和44)年開業。備蓄能力は世界最大を誇り、立ち並ぶ巨大なタンクは錦江湾を挟んだ大隅半島からも見ることができます。

市の中心部と指宿方面を結ぶ国道226号沿いには、県内最初の「道の駅」マリンピア喜入があり、温泉保養館と室内温水プールを備えています。南北16キロに及ぶ海岸線は沖合い1・5キロまで遠浅で特産品のアオノリの養殖も行われています。

今後も長い海岸線を生かしたまちづくりが期待されています。



市民フォト

鹿児島

NO.100

編集・発行／鹿児島市広報課

鹿児島市山下町11番1号

電話 216-1133

印刷・レイアウト／海上印刷株式会社



R100

この広報誌は、古紙配合率100%の
再生紙を使用しています。